

# 2012年3月期中間決算概況と今後の事業展開



2011年11月7日



# (1) 2012年3月期中間決算概況

取締役管理担当 長谷川 裕朗



# 連結・単体業績(前期比較)

損益計算書(2011年4月1日～2011年9月30日)

(単位：百万円)

	連 結				単 体			
	2011年 3月期中間	2012年 3月期中間	差額	増減率	2011年 3月期中間	2012年 3月期中間	差額	増減率
売上高	5,676	5,560	116	2.0%減	2,807	2,781	26	0.9%減
営業利益	91	25	66	72.0%減	222	156	66	29.7%減
経常利益	108	38	69	64.5%減	243	181	61	25.2%減
当期純利益	11	58	69	-	130	162	292	-

連結子会社：・株式会社セップ  
 ・バウンディ株式会社  
 ・株式会社ブルース・インターアクションズ  
 ・株式会社Pヴァイン

# セグメント別（前期比較）

(単位:百万円)

	放送関連	映像制作	音楽ソフト	調整額	連結計
【売上高】					
2011年3月期 中間	2,808	367	2,538	35	5,676
2012年3月期 中間	2,782	447	2,359	27	5,560
増減額	26	81	179	8	116
【営業利益】					
2011年3月期 中間	223	38	111	18	92
2012年3月期 中間	157	2	160	28	26
増減額	66	40	49	9	66

放送関連事業 : 音楽専門チャンネル「スペースシャワー-TV」・「スペースシャワー-TVプラス」のスカパー!やケーブルテレビ局などへの提供や放送に関連する音楽イベントの主催、ライブハウスの運営など。

映像制作事業 : ミュージックビデオや劇場公開用映画など映像作品の受託制作。

音楽ソフト事業 : 音楽ソフトの制作・流通や音楽著作権の管理、音楽専門誌・書籍の編集・出版など。

# 放送関連事業（前期比較）

（単位：百万円）

	2010年度	2011年度	増減	増減内訳						
				スカパー	CATV IPTV	広告	イベント	ライブ ハウス	その他	合計
役務放送売上	726	546	180	180						180
番組販売売上	1,410	1,551	141	132	9					141
広告営業売上	202	186	16			16				16
制作売上	0	33	33						33	33
音楽流通売上	56	33	23						23	23
その他売上	414	433	19			12	22	70	41	19
売上	2,808	2,782	26	48	9	4	22	70	31	26
売上原価	1,947	1,988	41	35	7	3	3	97	34	41
売上総利益	861	794	67	13	2	7	25	27	3	67
販管費	638	637	1					1	2	1
営業利益	223	157	66	13	2	7	25	28	5	66

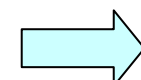
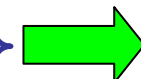
スカパー : 『スカパー！』の減益分を『スカパー！e2』の増益分で補うことが出来ずに減益となりました。  
 CATV/IPTV : ケーブルテレビ局経由の加入者が減少したことによりCATV売上は減少しましたが、  
 ブロードバンド系プラットフォーム経由の加入者が引き続き増加したことで  
 CATV売上の減少分をカバーすることが出来ました。  
 広告 : 一般クライアントからの広告出稿は前年並みを確保したものの、レコードメーカーからの広告出稿が  
 減少したことにより減益となりました。  
 イベント : 音楽ライブイベント『Sweet Love Shower』のチケット販売枚数が減少したことにより減益となりました。  
 ライブハウス : 震災の影響により、公演の中止や延期が相次ぎ、利益貢献には至りませんでした。

# 視聴可能世帯数の状況

スペースシャワーTV

(単位:千世帯)

	2010年9月末	2011年9月末	増減
ケーブルテレビ局経由	6,480	6,359	121
ブロードバンド系プラットフォーム経由	748	952	204
スカパー！ e2(110°CS放送)経由	547	703	156
スカパー！(124/128°CS放送)経由	665	571	94
合計	8,439	8,585	145



## 11年9月中間期売上

**番組販売売上高**  
**1,409 百万円**

(前年同期比+97百万円)

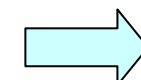
**役務放送売上高**  
**354 百万円**

(前年同期比 124百万円)

スペースシャワーTVプラス / VMC

(単位:千世帯)

	2010年9月末	2011年9月末	増減
ケーブルテレビ局経由	874	874	0
ブロードバンド系プラットフォーム経由	771	967	196
スカパー！(124/128°CS放送)経由	521	454	67
合計	2,166	2,294	129



## 11年9月中間期売上

**番組販売売上高**  
**127 百万円**

(前年同期比+44百万円)

**役務放送売上高**  
**191 百万円**

(前年同期比 55百万円)

## スカパー！(124/128°CS)及びスカパー！ e2(110°CS) 全体の個人契約者数

【スカパー！】

2010年9月末：2,343,031世帯

2011年9月末：2,082,311世帯( 260,720)

【スカパー！ e2】

2010年9月末：1,255,214世帯

2011年9月末：1,569,884世帯(+ 314,670)

(2011年9月スカパー発表資料より)

# 映像制作事業（前期比較）

（単位：百万円）

	2010年度	2011年度	増減	増減内訳		
				ミュージック ビデオ	その他	合計
制作売上	319	405	86	86		86
その他売上	48	42	5	16	21	5
売上	367	447	81	102	21	81
原価	366	406	40	66	26	40
売上総利益	1	42	41	36	5	41
販管費	39	40	1		1	1
営業利益	38	2	40	36	4	40

CD・DVDパッケージ市場の縮小を背景に、主な受注先のレコードメーカーのミュージックビデオ制作費は大幅に減少しております。しかしながら、低制作費ではあるものの受注本数が増え、また、大型案件の受注もあったことから、受注単価は下がることなく前年並みとなりました。この結果、前年同期比で81百万円の増収、40百万円の増益となりました。

# 音楽ソフト事業（前年同期比較）

（単位：百万円）

	2010年度	2011年度	増減	増減内訳						
				CD・DVD パッケージ	音楽配信	音楽権利	スタジオ 事業	書籍出版	その他	合計
広告営業売上	9	15	7					4	3	7
音楽流通売上	2,189	2,026	163	108	6	17			32	163
その他売上	340	318	22				23	16	17	22
売上	2,538	2,359	179	108	6	17	23	12	12	179
原価	1,902	1,828	74	71	8	1	5	23	14	74
売上総利益	636	531	105	37	2	18	19	35	2	105
販管費	747	691	56	30				1	27	56
営業利益	111	160	49	7	2	18	19	36	29	49

【売上の減少】 音楽流通売上において、(株)ブルース・インターアクションズおよび(株)Pヴァインに前年度のような大型作品のリリースが無かったことから、CD・DVDパッケージ売上が大きく減少しました。  
音楽権利に関しては、前年度のように過去ヒット作品の二次使用料の収入による一時的収入増が無かったことから、全体では売上が2,359百万円と前年比 179百万円減少しております。

【利益の減少】 スタジオ事業および音楽権利収入の減収による利益減と、書籍出版事業において返品調整引当金の計上ルールを変更したことによる引当金の増加等が影響し、全体では営業利益が 160百万円と前年比 49百万円減少しております。

# 特別損失の内訳

(単位:百万円)

内 容	連 結	単 体
貸倒引当金繰入(子会社)	-	138
株式評価減(子会社)	-	122
のれん償却費	10	-
減損損失	4	-
震災見舞金	2	2
固定資産除却損	1	-
合 計	18	261

(子会社清算に伴う損失)

- ・貸倒引当金繰入(子会社) : 子会社への貸付金に対する貸倒引当金計上
- ・株式評価減(子会社) : 子会社株式の評価減
- ・のれん償却費 : 子会社株式の「のれん」償却費

(その他の損失)

- ・減損損失 : 不採算事業(着うたフル)撤退に伴う固定資産の減損
- ・震災見舞金 : 被災したケーブルテレビ局等への見舞金

・本年度、グループ内の重複機能の効率化やデジタルネットワーク化への対応を目的にグループ内の組織再編を行ないました。この組織再編に伴い、本年9月30日をもって子会社2社(バウンディ(株)及び、(株)ブルース・インターアクションズ)を解散し、事業を当社へ吸収いたしました。

・この組織再編により、当社単体決算では子会社株式の評価減や貸倒引当金繰入を約2億6千万円計上いたしました。なお、この損失のほとんどはグループ内取引であることから、当社連結決算への影響は約1千万円となっております。

## (2) 2011年度通期業績予想及び 今後の事業展開について

---

代表取締役社長 清水 英明

# 連結・単体業績予想（前期比較）

損益計算書(2011年4月1日～2012年3月31日)

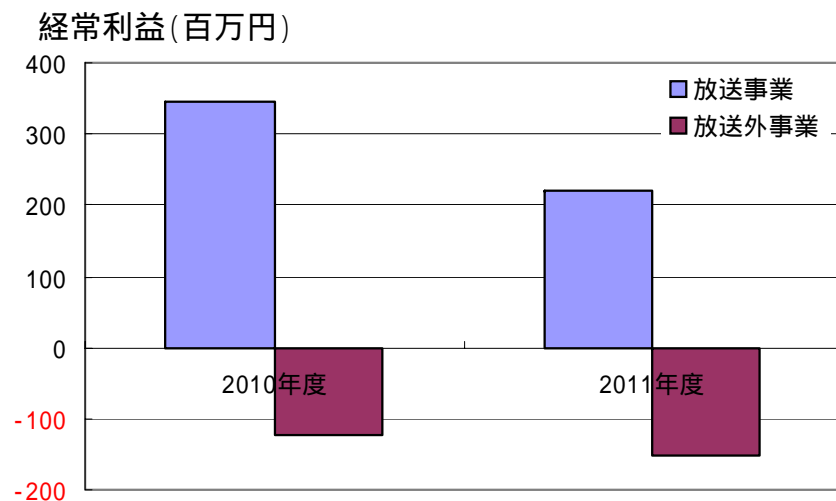
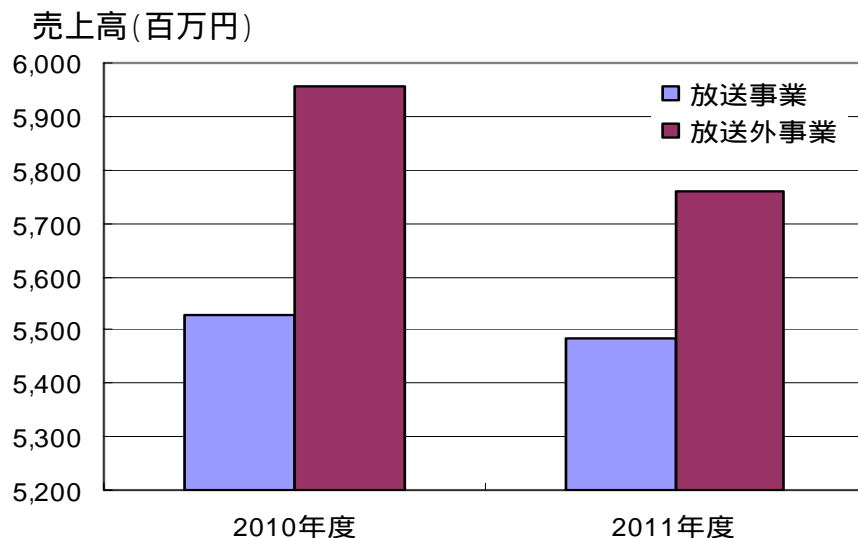
(単位:百万円)

	連結				単体			
	2011年 3月期	2012年 3月期	差額	増減率	2011年 3月期	2012年 3月期	差額	増減率
売上高	11,435	11,197	238	2.1%減	5,530	7,660	2,130	38.5%増
営業利益	196	43	153	78.1%減	307	145	162	52.8%減
経常利益	223	64	159	71.3%減	346	203	143	41.3%減
当期純利益	52	156	104	200%増	176	17	159	90.3%減

平成23年11月現在の連結子会社:

- ・株式会社セップ
- ・株式会社Pヴァイン

# セグメント別業績見通しと組織再編



放送事業は、過去数年間広告収入が大幅に減少するものの、有料放送収入が堅調に増加し、放送収益を下支えしてきました。しかし、2011年度においては、有料放送収入が前年度比若干ながら減少する見込みであり、当社グループの中核事業として、放送事業については、この有料放送収入の拡大を可能にする体制への移行が必要。

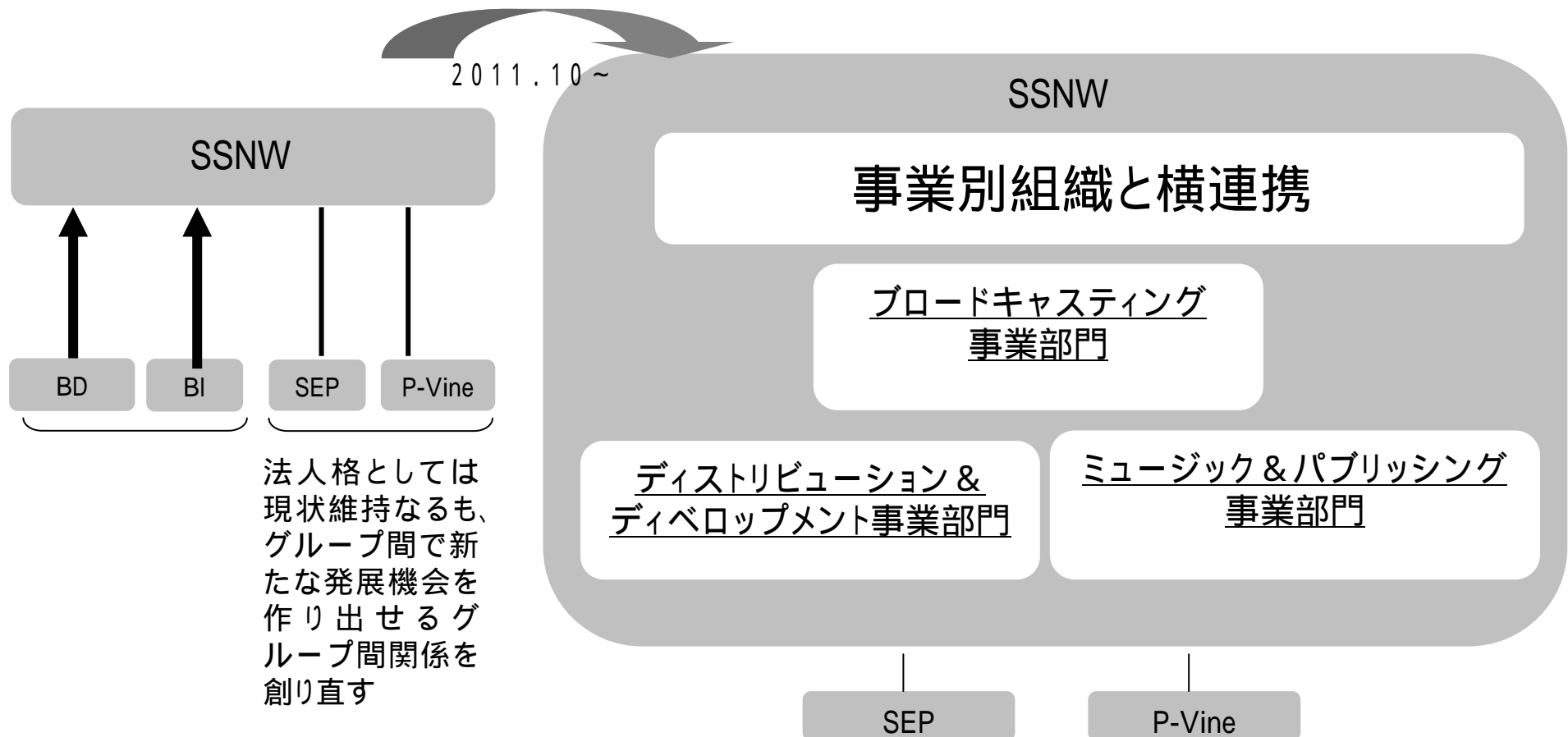
一方、当社グループはデジタル事業やライブ事業、ライセンス事業など放送外事業の開拓強化への足がかりとしてバウンディとブルース・インターアクションズに資本参画してきた。それにより、当社グループは、アーティスト・クリエイターの活動を支え、プロモートしていく各種サポート機能は拡充しつつあるものの、まだ利益体質が構築できておらず、グループとして機能プラットフォームの拡大強化と重複機能の効率化などによる収益力の獲得が必要。



こうした背景の中、10月1日付けでグループの組織再編を実施

# 組織再編

本再編に当たっては、硬直的であった組織人事に手を加えるとともに、事業部門間・子会社間の連動を高めるための施策として、グループ横断プロジェクトを設置し、これまで当社が掲げてきた重点戦略領域である『放送・ライブ・デジタル・ライツ分野』での取組みをダイナミックに本格化することに主眼を置きながら、放送収益の拡大及び各種機能プラットフォームの拡大強化を図る。









# 今後の事業展開

# 放送事業の戦略的取組

有料多チャンネル放送市場は、ビジネスモデルは確立されているものの、マクロ的には成長鈍化局面に入っていると考える向きもあるが、当社としては、インフラ営業戦略やマーケットのニーズに沿った編成やプロモーション展開の強化で、有料放送収入を増加させる余地はまだ充分にあると考えている。当面は以下の示す具体的施策を進め、音楽2CHでのメディア価値の最大化を図っていく。

## 放送PFの動向と当社2CHのポジション

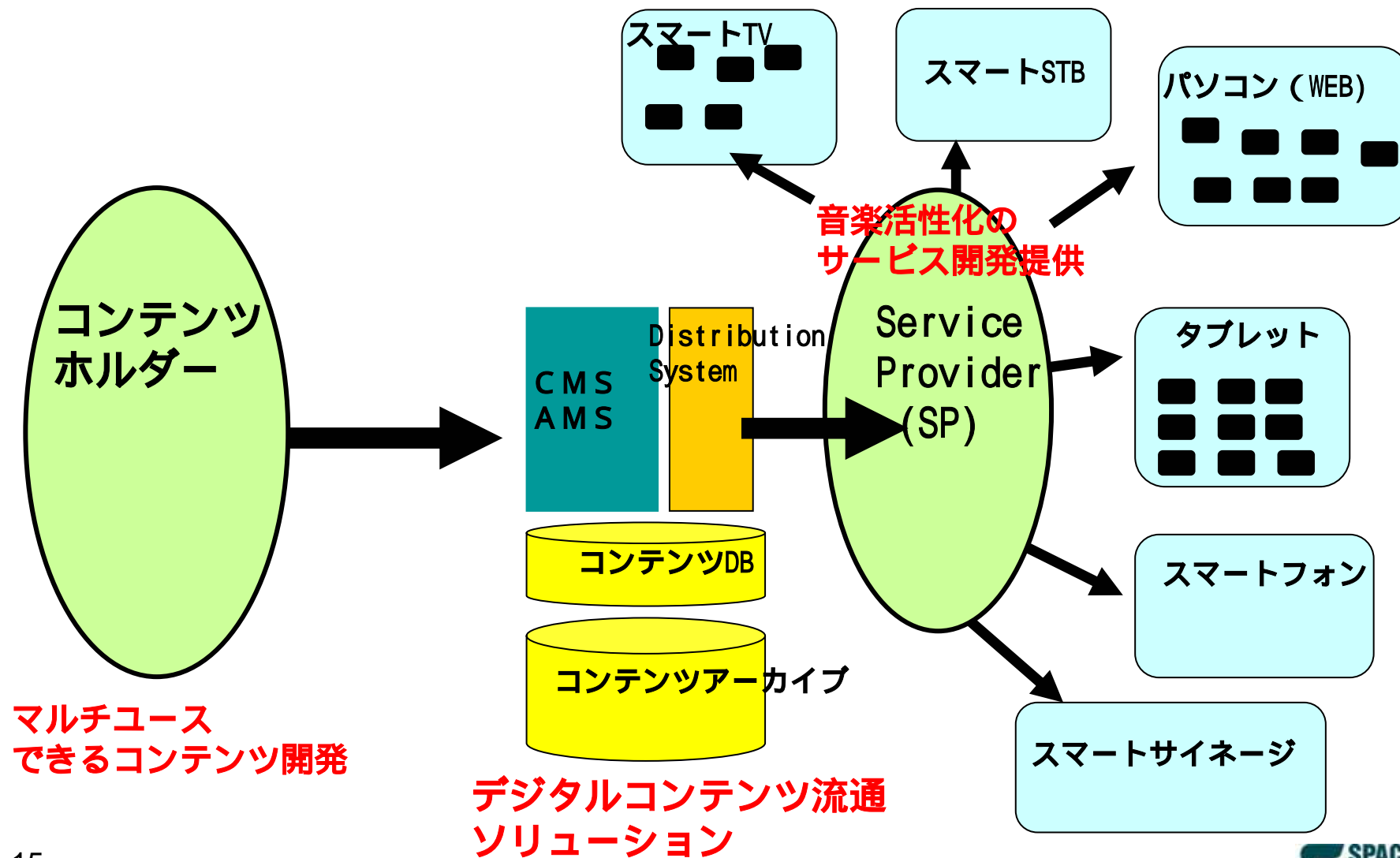
124/8は2014年度末までにSDからHDへの完全移行を進めているが減衰傾向続く	 
110°は地デジの普及・新規BSの開始もあり拡大続く	
CATVはマストバイベーシックの崩壊懸念。市場に支持されるCHが強くなる傾向に	
IPTVは光回線の普及に合わせ今後も拡大傾向続く	 



<p><u>SSTV</u></p> <p>858万世帯の加入者を有するSSTVは今後加入世帯を伸ばす余地が少ない為、単価アップに主眼を置いた戦略を取る。</p> <p>マーケットに支持される番組編成へのシフトによる単価アップを図る</p> <p>短期的にはコストアップになるが、HD化を推進し、他音楽CHとの差別化を図る</p> <p>編成方針の変更による広告の底上げ</p>
<p><u>SSTVプラス</u></p> <p>契約世帯が229万世帯に留まっているSSTVプラスは、加入世帯の獲得を中心にした以下戦略を取る。</p> <p>成長PFである110°での座席確保による収益アップ (平成23年11月4日開示資料参照)</p> <p>CATV契約局の拡大</p>

# 放送外事業の戦略領域

マルチデバイス化、サービスアプリ化が進むこれからの時代において、川上のコンテンツホルダーから、川下のサービスプロバイダー、川中のディストリビューション機能やアーカイブ・データベース提供など、当社の現在の強みを活かして、新しいポジション獲得を進める。



# 当社の目指すポジション

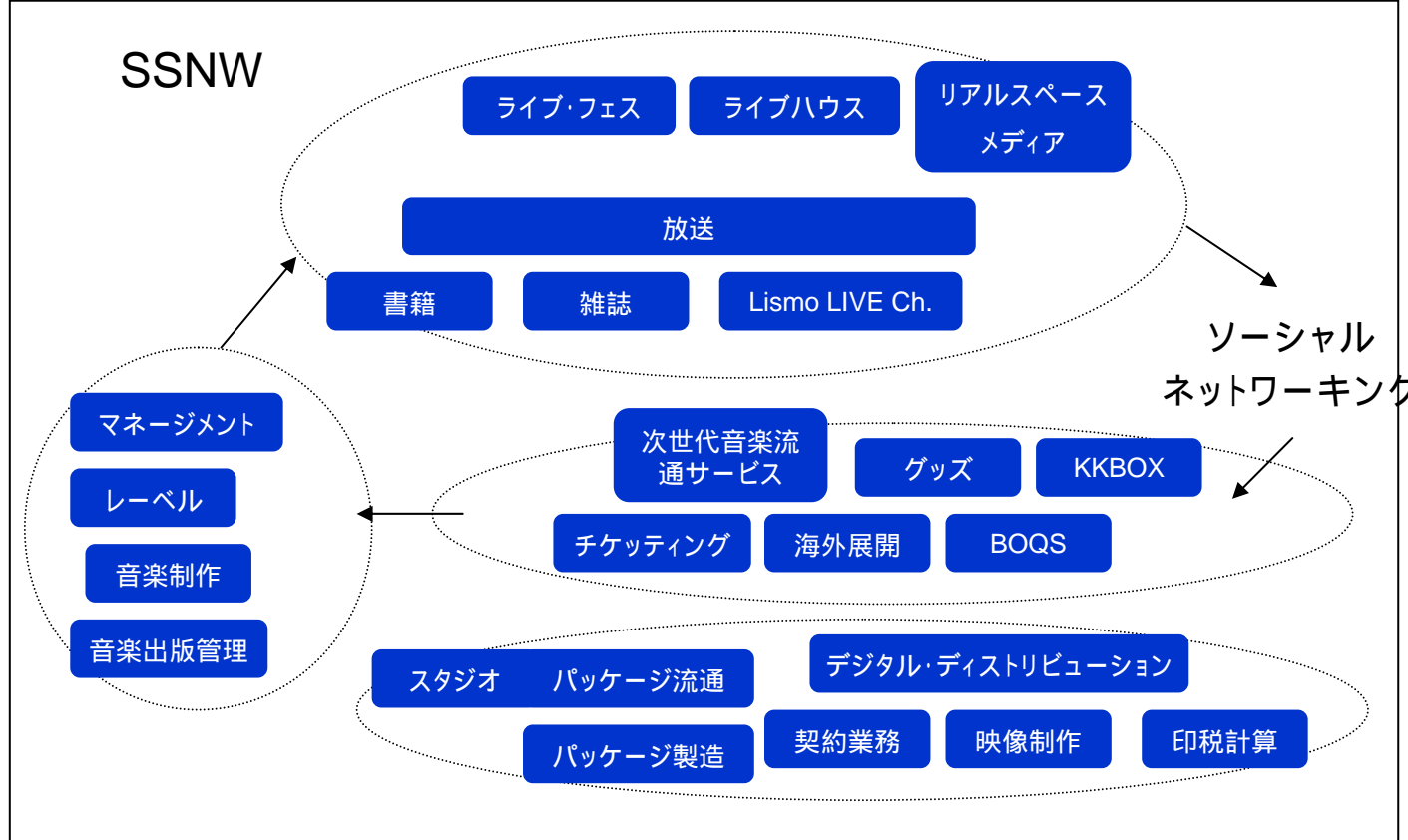
良質な音楽を志向するクリエイターの為の新しい時代にふさわしい音楽ビジネスプラットフォームの開発整備を通じ、世の中に良質な音楽を送り届けていく

メジャーレコード会社

地上波TV

メディア環境が多様化するマルチネットワーク時代にふさわしい、多様なメディアと流通が一体となった音楽ビジネスのフォーマットの構築・強化拡大 KDDIとの資本・業務提携の主目的

アーティストを育成し支えるための Platform  
音楽活動を支えるインフラとノウハウの集積



# 本資料における注意事項

・視聴可能世帯数とは以下の通りです。

ケーブルテレビ局経由：各ケーブルテレビ局から衛星テレビ広告協議会に報告されている数をベースに集計しております。

スカパー！：経由：個人本登録手続きを終えた契約数に加え、個人仮登録件数と販売代理店店頭展示台数等を含んでおります。

・本資料に記載されている、将来の業績に関する計画、見通し、戦略等は、現在入手可能な情報から得られた当社の経営者の判断に基づいております。したがって、これら業績見通しのみで全面的に依拠して投資判断を下すことは控えるようお願いします。

問い合わせ窓口

株式会社スペースシャワーネットワーク

<http://www.spaceshower.net/>

コーポレート企画室 TEL03-3585-3242 FAX03-3585-3667

林 yhayashi@spaceshower.net

市川 ichikawa@spaceshower.net